



あなたの家電は大丈夫ですか？

電気火災は、家電製品を正しく使うことや故障や不具合を早めに発見することで防ぐことができます。電気火災を防ぐポイントをチェックしてみましょう。

- 電気ストーブなどの電熱器のまわりに、燃えやすいものを置いていませんか？
→発熱する家電製品のまわりに燃えやすいものを置かないようにしましょう。
- 電気ストーブなどの電熱器のスイッチを入れたまま寝ていませんか？
→寝返りなどにより、思わぬ方向に布団が移動することがあります。気をつけましょう。
- コンセントでタコ足配線をしすぎていませんか？
→タコ足配線が重ると、コンセント部分が発熱することがあります。気をつけましょう。
- コンセント部分にホコリが溜まっていませんか？
→ホコリが湿気を帯びることで、火災の原因となります。定期的な点検・清掃を心がけましょう。
- コンセントのプラグを抜く時、プラグ本体を持って抜いていますか？
→コードを持ってコンセントを引き抜くと、断線することがあります。気をつけましょう。
- 家電製品のコードが、家具などの下敷きになったりしていませんか？
→下敷きになったコードが傷ついて、断線することがあります。気をつけましょう。
- 電子レンジで必要以上に長く加熱をしていませんか？
→あらかじめ適切な加熱時間を確認し、火災の対応を確認しておきましょう。
- ご使用前に、取扱説明書を読んでいますか？
→取扱説明書は、よく読んで家電製品の使い方を間違えないようにしましょう。
- 故障した電気製品を、自分で修理していませんか？
→知識のない状態での無理な修理はやめましょう。

監修： **東京消防庁** <http://www.tfd.metro.tokyo.jp>



制作：  公益財団法人 **東京防災救急協会** <http://www.tokyo-bousai.or.jp>
Tokyo Disaster Prevention & Emergency Medical Service Association

問合せ先：

電気火災って

知っていますか？



※実験時の写真です。実際の火災とは関係ありません。



**長年使った
愛用の家電が
火の元に!?**

電気火災から身を守るための 方法を考えてみませんか？

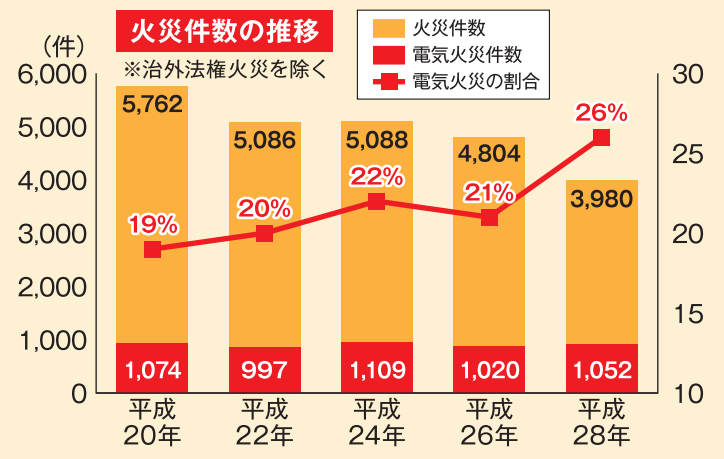


キュータ



減らない電気火災

東京消防庁管内の火災件数は年々減少しています。しかし、電気製品が原因の火災は毎年約1,000件のまま変わっていません。電気火災が占める割合は、平成20年の19%から平成28年には26%に増加しています。



後期高齢者の電気火災による死者の増加

最近、後期高齢者の電気火災による死者が増加傾向にあります。電気ストーブによる火災での死者についても、多くが後期高齢者です。

羽毛布団を使つての実験では、布団から炎が出る前の煙だけの状態で一酸化炭素の濃度が高くなり、1時間ほどで危険な状態になります。

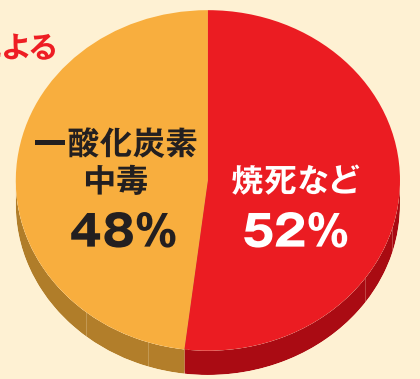
電気火災における死者の推移

	平成20年	平成22年	平成24年	平成26年	平成28年
高齢者以外	4人	7人	5人	1人	1人
前期高齢者*	1人	7人	3人	3人	2人
後期高齢者*	17人	8人	10人	18人	7人
合計	22人	22人	18人	22人	10人

※前期高齢者：65歳～74歳 ※後期高齢者：75歳以上

後期高齢者の電気ストーブによる死因の割合

(平成20年～平成28年合計)



電気火災を防ぐポイント!

■電気ストーブによる火災に注意!!



夜、布団から火が...

布団のすぐそばに置いていませんか?

布団とストーブが10cmほど離れていても発火することがあります!

スイッチを入れたまま寝ていませんか?

布団や衣類が接触して発火することがあります!

■コード・コンセントからも発火します!!



コンセントから火が...

プラグ等に表示された電気量以上を使用していませんか?

使用できる電気量には制限があります!

コンセント部分にホコリが溜まっていませんか?

コンセントに溜まったホコリが湿気を帯び、電気が流れて発火することがあります!

■電子レンジによる火災が増えています!!



肉まんから火が...

電子レンジの使い方を間違えていませんか?

時間設定ボタンの「1分」と「10分」を押し間違えていませんか?

さつま芋や肉まんなどは、長時間加熱すると急速に燃焼する危険があります!



※実験時の写真です。実際の火災とは関係ありません。

電子レンジ火災時の対応

※万が一火災が発生したときは、119番通報してください。

- ① 扉を開けずに電源を遮断する。
- ② 扉を閉めたまま、あわてずに庫内の様子を見る。
- ③ 火が消えなければ、扉を閉めたまま、消火器などの消火器具を準備する。

出火してしまった場合、扉を開けずに電源を遮断してください。